

「水」飲んでますか？

(1) 水の要求量

乳牛の水要求量は、乾物摂取量 (DMI)、日乳量、最低気温などから求めることが出来ます (表1)。計算では、気温が高くなるにつれて多量の水が必要と算出されます。

乳量 2.5 kg / 日の牛では、最低気温 15℃ で約 85ℓ の水が必要で、気温の上昇とともに必要量は増加します。

従って、新鮮な水を十分に飲ませることは、有効な暑熱対策にもなります。

(2) 給水量は確保

されていますか？

ウォーターカップ方式では、末端のカップまで十分供給されているかを確認しましょう。

- ① 20秒間に4〜6回吐水しているか？
- ② 末端のカップまでその量が確保されてい

表1 乳牛の水要求量 (NRC 2001年)

$$\begin{aligned} \text{水の要求量(kg/日)} = & 15.99 + 1.58 \times \text{DMI(kg/日)} + 0.99 \times \text{乳量(kg/日)} \\ & + 0.05 \times \text{ナトリウム摂取量(g/日)} + 1.20 \times \text{最低温度(}^\circ\text{C)} \end{aligned}$$

るか？

③ 一斉に飲んでも吐水量が減少しないか？

吐水量が不足して場合、次のような原因が考えられます。

- ① 貯水タンクが設置されていない
 - ② バイパス管が設置されていない
 - ③ 配管の径が細い
- 原因に応じて、貯水タンクの設置、バイパス管の増設、配管の径を太くするなどの対策が効果的です (図1)。

① このことによって、牛が一斉に水を飲んでも吐水量の減少が押さえられます。

② バイパス管や配管径の改善・施工は、必ず専門家に依頼しましょう。

③ カップの手入れ
ウォーターカップは 清潔に

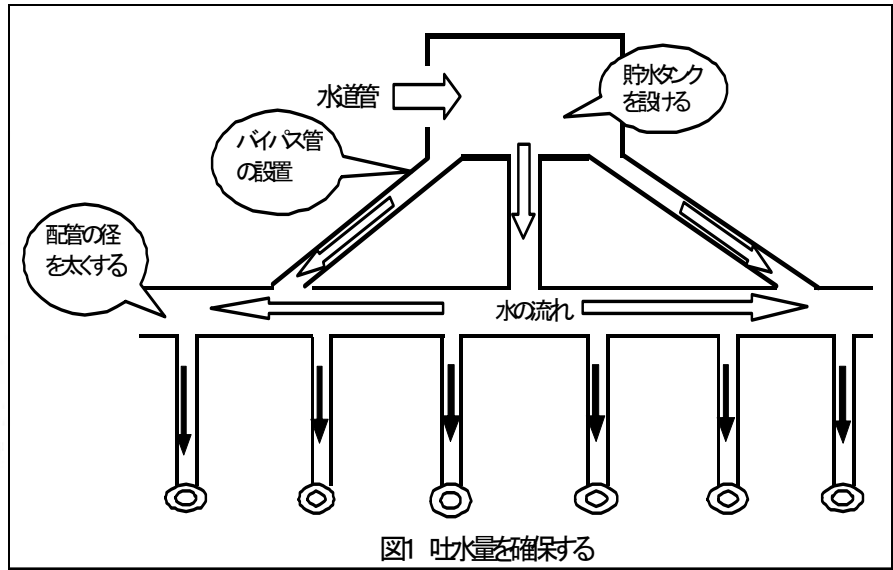
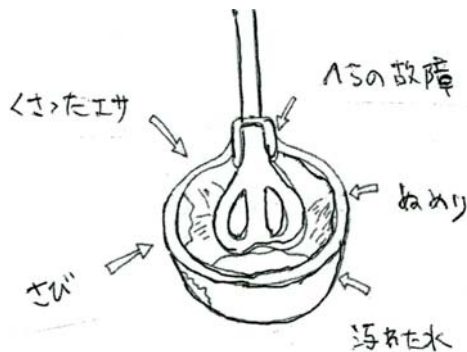
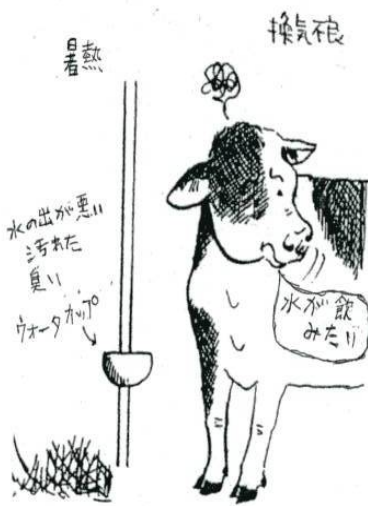


図1 吐水量を確保する



保ちましょう。

溜まった飼料などによる汚れや詰まり、「へら」の故障、「さび」などは飲水を制限します。こまめな点検と手入れを行いましょう。

いつでも、好きなだけ水が飲める環境があれば採食量は減少しません。沢山飲んで、食べればきっと乳量も増えるはずです。